

2019・02

| PRESS RELEASE |
株式会社LIXIL

巡回企画展のご案内

吉田謙吉と12坪の家 — 劇的空間の秘密 —

Kenkichi Yoshida and His Tiny 12-Tsubo House: Secrets of Dramatic Space Design

会期: <大阪> 2018年12月7日(金)~2019年2月19日(火)

<東京> 2019年3月7日(木)~5月25日(土)

会場: LIXIL ギャラリー



写真 1: 「12坪の家」書斎の出窓に腰掛ける吉田謙吉と居間兼ホール入り口に立つ娘・珠江 (1949年夏)
写真提供: 吉田鹿乃子

LIXIL
GALLERY

<http://www.livingculture.lixil/>

「建築とデザインとその周辺」をめぐり、独自の視点でテーマを発掘するLIXILギャラリーでは、大阪：2018年12月7日（金）～2019年2月19日（火）、東京：2019年3月7日（木）～5月25日（土）の期間、企画展「吉田謙吉と12坪の家 - 劇的空間の秘密 -」を開催します。

舞台美術を中心に考現学採集、装幀、文筆業など多彩なジャンルで活躍した吉田謙吉（1897-1982）は、戦後、自らの設計で12坪の家をつくります。小さいながらもステージがあり、恩師の一人、今和次郎に「愉快的家」と評された自邸です。本展は、アイデアとユーモアに溢れた吉田謙吉の独創的な空間づくりの秘密を、「12坪の家」にいたる系譜を辿りながら約140点の資料とともに探ります。

開催概要

「吉田謙吉と12坪の家 - 劇的空間の秘密 -」

Kenkichi Yoshida and His Tiny 12-Tsubo House: Secrets of Dramatic Space Design

会 期 <大阪>2018年12月7日（金）～2019年2月19日（火）
<東京>2019年3月7日（木）～5月25日（水）

開館時間 <大阪>10：00～17：00 <東京>10：00～18：00

休館日 <大阪>水曜日、12/29-1/4、2/17 <東京>水曜日

会 場 大阪会場：大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 12階
東京会場：東京都中央区京橋3-6-18東京建物京橋ビル LIXIL：GINZA2階

入 場 料 無料

企 画 LIXILギャラリー企画委員会

制 作 株式会社LIXIL

協 力 塩澤珠江、秋田雨雀・土方与志記念青年劇場、一木努、工学院大学図書館、STUDIO遊盡、中央区立郷土天文館（東京）

会場デザイン + 建築設計 田代朋彦

会場グラフィック kobito inc.

展覧会の見どころ

片流れの屋根に赤い板壁、窓周りの白がアクセントのかわいらしい家。これは戦後、吉田謙吉が52歳（1949年）のとき、東京・港区飯倉（現・麻布台）に自ら設計して建てた自邸です。12坪、約40㎡の狭小住宅は当初家族3人の住居としてスタートしました。ステージと観客席用のホールを内在するこの家は、謙吉が舞台美術家であったことを象徴しています。故に、一般的な間取りとは明らかに異なるのがこの家のオリジナリティです。この「劇的空間」を解き明かすには、彼の多面的な活動も影響していると推測されます。関東大震災直後、今和次郎らと立ち上げたバラック装飾社、それが発展して誕生した考現学、また築地小劇場を中心とした舞台美術家としての仕事や住まいの提案の数々……。世の中が苦難の中にあっても自由で新しいまなざしを持ち、人を楽しませることが好きで、自身も人生を楽しく謳歌することを望んだ謙吉の生き方が、様々な活動のエッセンスとともに、「12坪の家」に満ちています。

本展では、「12坪の家」を基軸に、謙吉が残した空間づくりに関わる数多くの記録や資料からその秘密を探り、同時に前向きに楽しく生きた吉田謙吉の人となりを探ります。

写真2



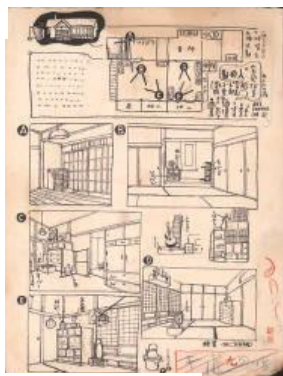
●展示構成と主な展示

劇的空間「12坪の家」

12坪の家の詳細を明らかにすることを試みる。謙吉は建てる前の理想図や建てた後の平面図を雑誌等に掲載した。38年間12坪の家に住んだ娘・塩澤珠江氏の記憶とわずかに残されたそれらを頼りに完成させた1/20の模型（写真2）や、会場内に設ける小ステージで謙吉が使用していた仕事机や舞台幕を展示。狭い故に各部屋に複数の用途が兼ねられるなど、様々な工夫が施された間取りの不思議を解明する。

写真3

写真4



「12坪の家」への系譜1:自由であたらしいまなざし バラック装飾社と考現学

1923（大正12）年の関東大震災で東京は焼け野原と化した。被災者たちは自力でバラック（掘立式の建築物）を建て始めると、謙吉は恩師の今和次郎らと共に街を歩き風俗をスケッチした。これが「バラック装飾社」につながり、のちの「考現学」誕生のきっかけとなった。苦境時に潤いと華やかさを提供する活動と世の中の変化を受け止め、観察することで養った自由であたらしいものの見方は謙吉ののちの仕事に大きな影響を与えた。会場では、「バラック装飾社」の仕事写真で紹介し、「考現学」に関しては、謙吉が採集した風俗のスケッチや調査データ等の実資料（写真3,4）を展示する。

写真5



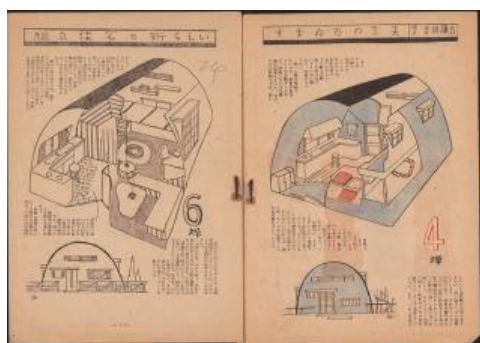
写真6



写真7



写真8



「12坪の家」への系譜2:人をたのしませる空間づくり 舞台美術と店舗設計

演劇人として、また舞台美術家としてより本格的に歩み始めたのが、同じく震災後の翌年1924年にバラック建築として建てられた築地小劇場での活動である。謙吉は同劇場の第一回公演「海戦」の舞台美術を担当し、日本における本格的な表現派のそれとして高く評価された。また、低予算の中で「丸太組み構成舞台」を創案（写真5）。布を張り替えるだけで場面を素早く転換させることができた。ここでは、謙吉が設計した舞台の模型や手描きの舞台図を中心に展示し、彼の空間づくりにおけるエンターテインメント性を紹介する。

謙吉は、いくつかの店舗設計も手掛けた。その一つが昭和9年に依頼された銀座のバー「機関車」（写真7）。自身も鉄道好きで、内装を鉄板で張り巡らすなど、舞台美術をつくるように楽しく設計したという。ここでは、バー「機関車」の内装写真や「機関車」のマッチラベル他4種類の店舗設計の提案スケッチなどを展示する。

住まいをたのしむ、暮しの工夫

様々な活動を通じてあたらしいものの見方を培ってきた謙吉は、戦前から新聞や雑誌に“暮しの工夫”というテーマで実用的な提案を数多く発信した。最終章では、アマチュアカメラマン、主婦、教員、新婚夫婦などそれぞれの読者層に合わせた住まい方の工夫が掲載された記事約10点を展示する。苦境を生き抜いた謙吉による自由でたのしいアイデアで彩られている。

| リリース用画像 |

写真 9



写真 10



本リリースに掲載された画像(写真1~10)の送付をご希望の際は、メールにて担当者までお問い合わせ下さい。

<http://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g-1812/>

【写真キャプション・クレジット】

写真 2 : 模型「12坪の家 1/20」(1949年建設当初のころのもの)。所蔵:塩澤珠江、制作:STUDIO 遊盡 撮影:佐治康生

写真 3 : 夜の闇に隠れて仲睦まじくする男女をスパイしながらに採集した原画のひとつ。所蔵:吉田鹿乃子

写真 4 : 「勤め人の家庭採集」原画。『新生』1948年(昭和23)2月号のためのもの。戦後の日本に増加した勤め人(サラリーマン)を採集の対象とした一つ。5人家族の自宅の各部屋の様子を複数の角度から描き記している。

所蔵:吉田鹿乃子

写真 5 : 築地小劇場「社会の敵」の舞台模型。劇場名と同じくする築地小劇場による1925年10月の上演。

所蔵:吉田鹿乃子、撮影:佐治康生

写真 6 : 松竹歌劇団「春のおどり」の舞台図。1995年国際劇場での公演時のもの。所蔵:吉田鹿乃子、撮影:佐治康生

写真 7 : バー「機関車」の内部写真。写真提供:吉田鹿乃子

写真 8 : 「組立住宅の新らしいすまゐ方の工夫」(『婦人と生活』1949年4月号)。謙吉の寄稿記事。戦災で家を失った人に向け、組み立て式住宅での住まい方を提案。所蔵:吉田鹿乃子

写真 9 : 表札。竹製の表札は詩人・劇作家の菊岡久利(きくおかくり)が1941年(昭和16)に、謙吉と鹿乃子の結婚祝いに贈ったもの。所蔵:吉田鹿乃子、撮影=佐治康生、

写真 10 : 自著『舞台装置者の手帖』(四六書院、1930年)。所蔵:吉田鹿乃子、撮影=佐治康生、

| 関連企画のご案内 |

【講演会】 愉快的家 父・吉田謙吉の住まいの夢 **終了しました**

日時 2019年1月19日(土) 14:00~15:30

講師 塩澤珠江

(「ギャラリー季の風」主宰、「吉田謙吉・資料編纂室」代表)

会場 LIXIL ショールーム大阪 セミナールーム

大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 11階

費用 無料(※要予約、定員70名)

予約方法 電話もしくはホームページから

内容 塩澤さんは、吉田謙吉の長女として12坪の「愉快的家」に38年間暮らししました。一般的な家とはかけ離れた謙吉の空間づくりを家族はどのように受け止めていたのか、また父が描いた住まいの夢とはなにか、など、住人としてまた家族としてのご経験を通して、サービス精神旺盛だった謙吉の人物像とともに、「愉快的家」を回想していただきます。

〔対談〕 「12坪の家」をめぐる ～吉田謙吉の自由なまなざし

日 時 2019年4月16日（火）18：30～20：00

講 師 塩澤珠江（「ギャラリー季の風」主宰、「吉田謙吉・資料編纂室」代表）
一木 努（歯科医師、建築破片収集家、路上観察学会会員）

会 場 AGC Studio（東京都中央区京橋 2-5-18 京橋創生館 2F）

費 用 無料（※要予約、定員 80 名）

予約方法 電話もしくはホームページから

内 容 吉田謙吉の家族であり、「12坪の家」に38年間住まわれた長女の塩澤珠江さんと、「12坪の家」が解体される前にそのカケラを収集し、なおかつ謙吉の考現学ともつながりのある歯科医、また建築破片収集家としても知られる一木努さんのお二人にご登場いただきます。謙吉自ら設計した自邸をめぐりながら、大正・昭和という激動の時代における謙吉ならではの物事の捉え方、生き方などについて、異なるお立場から語り合ってください。

| 新刊 LIXILブックレットのご案内 |

LIXIL BOOKLET 『吉田謙吉と12坪の家 - 劇的空間の秘密 -』

好評発売中（80 ページ、本体価格 1,800 円）

第1幕 劇的空間 12坪の家

第2幕 “12坪の家” への系譜 1 自由であたらしいまなざし

第3幕 “12坪の家” への系譜 2 人をたのしませる空間づくり

第4幕 エピローグ 住まいをたのしむ、暮しの工夫

| お問い合わせ |

LIXIL ギャラリー（<http://www.livingculture.lixil/gallery/>）大阪会場／高橋麻希 東京会場／寛天留、村木玲美
xbn@lixil.com

LIXIL は、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTURE を表現していきます。LIXIL は、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。